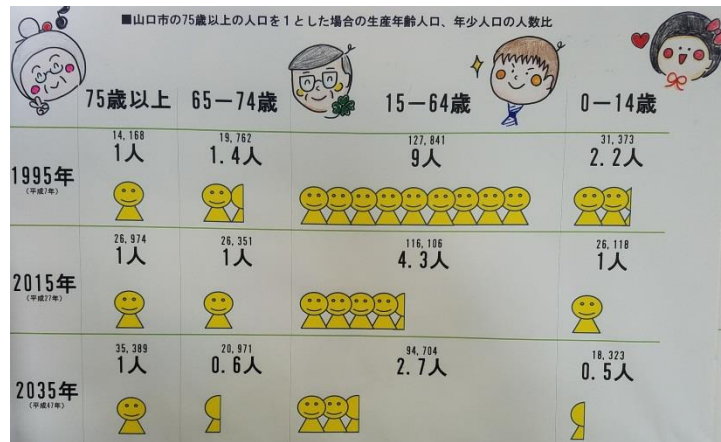
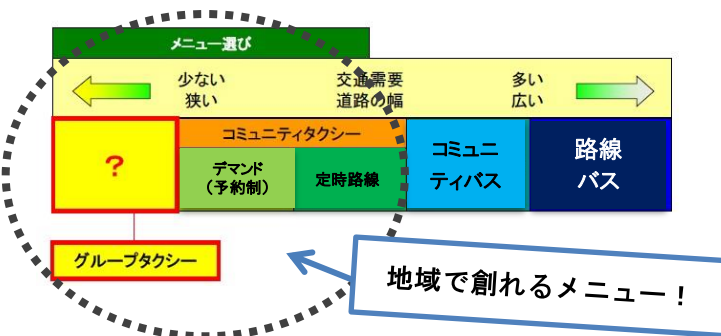


【山口市の75歳以上人口を1とした場合の
生産年齢人口、年少人口の人数比】



【地域の話し合いで生まれたグループタクシー】



参加者アンケートより<22名回答>

Q 地域検討会への参加により公共交通への理解が深まりましたか？

- ①深まった 15人
- ②どちらともいえない 4人
- ③深まらなかった 1人

Q 公共交通を利用しようと思えますか？

- ①引き続き利用する 9人
- ②これからは利用する 8人
- ③わからない 2人
- ④利用しない 3人

Q 公共交通を守る必要を感じましたか？

- ①感じた 21人
- ②どちらともいえない 1人

Q 地域での話し合いの必要性を感じましたか？

- ①感じた 21人
- ②どちらともいえない 1人

山口市の主な支援制度

- 相乗りするほどお得なグループタクシー利用券・・・65歳以上で最寄りの公共交通機関から1km(75歳以上700m)以上離れている方に距離に応じて300円、500円、700円の利用券を年間60枚交付
- 福祉タクシー利用券・・・障害者手帳をお持ちの方に300円の利用券を年間40枚または80枚交付
- おでかけサポートタクシー券・・・要支援・要介護認定を受けている方、介護予防・日常生活支援サービス事業対象者に300円の利用券を年間40枚交付(グループタクシー・福祉タクシー・おでかけサポートタクシー利用券の重複申請は不可)
- 福祉優待バス乗車証・・・70歳以上、市内の路線バスに限り乗車100円
- サイクル・アンド・ライド、パーク・アンド・ライド(乗り換え専用の駐輪場・駐車場)
- ノーマイカーデー参加登録者への毎月第3金曜日のバス半額割引、協賛店舗での特典サービス
- バス停上屋設置の補助金
補助対象経費の2/3以内
補助限度額70万円

詳細は、山口市交通政策課までお問い合わせください！

【感想(抜粋)】

- 交通行政の中で公共交通の役割を考えさせられました。
- 時間がもう少しあれば議論が深まったと思う。
- これからやること多い。学童通学道路は必ずスピード制限、大きな看板を。
- 自由討論の時間が少ない。他地区の実情が知りたかった。大内だけでも月一回は検討会を開いてもらいたい。地元の意見が大切。
- 検討会の結果を要約したプリントが欲しい。
- 森栗先生が話されたとおり、地域の者が、自分が困ることを先送りすることなく、皆で相談し、実施するよう努力することが大切だと感じた。
- 公共をお願いするだけでなく、いかにして共助で住民のためになる知恵を出し合おう。
- ワークショップ形式ではなく、今少し問題に特化した議論が必要ではないかと思いました。
- 世代や地域によって感じるものが様々で、いろんな地域ニーズもわかった。「自分たちでなんとかしていく」ということだが、これからどうやっていか、地域で考えていく機会が、何度もいるのかな。

今後に向けて地域の話し合いを応援します！
詳細は、交通政策課にご相談ください。協働推進課とも連携し、専門家のサポートも受けられるように調整します。

創ろう！守ろう！みんなの公共交通 地域検討会 かわら版

仁保・小鯖・大内 編
平成29年5月発行



～安心して住み続けられる
交通まちづくりを目指して～

山口市では、市民が将来に不安を感じることなく、安心して生活できるよう、マイカーに頼り過ぎず、移動手段の軸足を公共交通へ転換していくために、まちづくりや地域づくりなど総合的な観点から山口市では「山口市市民交通計画」を平成19年に策定し取り組んできました。

その中で、交通弱者のためになんとかしたいという思いから、コミュニティタクシーの運営組織(小鯖・宮野・嘉川・小郡・秋穂・佐山・阿知須・島地)が立ち上がり、地域が主体となり、地域のニーズにあったコミュニティ交通が整えられました。また、更なる交通弱者への対策としてグループタクシー(相乗り)の仕組みも新設しました。あわせて、都市核、地域核間を結ぶバスや鉄道についても維持強化を図ってきたところです。

しかしながら、鉄道や路線バス等の利用者の減少や、運転手の不足により、路線の廃止や減便につながっている状況です。一方で、これからの高齢社会の中での運転免許返納者が増えるなか、ますます困る人が増えると推測されます。また、移動手段を持たない若者や通勤者にとっても、公共交通は移動手段として必要不可欠なものです。

この現状を打破し、「クルマがないと生活できない山口」から「クルマがなくても生活できる山口」に転換し、安心して住み続けられる、クルマに頼り過ぎない交通まちづくりを目指して、「第二次山口市市民交通計画」を平成29年度中に策定することとしています。

そこで、地域の皆さんに現状を理解していただくとともに、地域の事情やニーズをお伺いし、より良い交通のあり方について、一緒に考えていくため、市内を10ブロックに分けて、去る3月に地域検討会を開催しました。

創ろう！守ろう！みんなの公共交通 地域検討会 かわら版 仁保・小鯖・大内編

発行：山口市都市政策部交通政策課 〒753-8650 山口市亀山町2-1

TEL 083-934-2729 FAX 083-934-2959

編集：山口市市民活動支援センターさぼらんて 〒753-0047 山口市道場門前1-2-19

TEL 083-901-1166 FAX 083-901-1165

3月6日(月)大内地域交流センターにおいて、22名の参加のもと地域検討会を開催しました。

最初に山口市市民交通計画についてご説明し、現状の課題をわかちあい、専門家の意見を頂き、課題を解決するアイデアを出し合いました。その概要をお伝えします。

この検討会を契機として、各地域の機運が高まり、それぞれの地域にあった地域公共交通を検討するための、二回目、三回目の勉強会につなげて行きましょう。



交通ジャーナリスト 鈴木文彦氏

これから地域ですすめるために・・・
公共交通は他人ごとではない、免許返納した高齢者も子育てママも境遇は同じ。地域みんなで考え、永遠に続くようにしていく必要がある。そのために・・・

- ・話し合い(地域の核をどうする?ルートは?利用促進をどうする?)
- ・体験する(自治会・子ども会でバスツアー企画→利便性調査)
- ・高齢者の外出を促すしくみ(行楽・楽しみ・声掛け)

■現状をわかちあう!■

交通弱者

バス停まで一苦労
高齢者の買い物・通院交通手段がない
免許返納後の交通手段・・・免許返納進んでいます!

グループタクシー

グループタクシーの制度を知らない人が多い
グループタクシー、福祉タクシーの利用の仕方が難しい
距離制限をゆるやかに
行く先が違いグループ分けが難しい
料金負担額の違いの調整が難しい
男性、女性の相乗りが難しい

利便性

JR仁保駅にトイレがない
バス停に屋根やベンチがない
ICカードが使えない
バス停がどこかわからない
低床式バスに

危険

大内旧道(氷上)の車のスピード制限
旧道と千坊地域の学童道路危険
大内地域は交通危険地域が多い、バスを小型化に

接続・便数

路線バスとの接続が悪い
県庁ターミナルでの接続が悪い
JRまでの公共交通がない
大内もコミバスが通らないところがあるのになぜジャンボ(コミタク)を走らせない?
ゆめタウンに乗り入れしてほしい
コミバスとコミタクの乗り継ぎをよくしてほしい
遅い時間の便がほしい
大内地域交流センターにもバス停を



大阪大学 森栗茂一氏

コミバスの利用促進!
免許返納して、優待バス乗車証で元気ピンピン!
地域ごとの地域の核を考え、コミバス、コミタク、グルタクの再編を
要望だけでは何もできない!
住民が動かなければ・・・

地域で再編!

- 必要な(魅力的な)路線の洗い出しにより全体のバランスを考え楽しめるように再編
- フリー乗車区間を拡大→グループタクシーへの移行
- 仁保やまびこ号を朝の通勤通学に仁保駅へ! ゆめタウンや宮野駅までの路線延長を
- 地域内の巡回を充実させる(大内)
- コミタクについて通常運行に加えデマンド方式を採用
- コミバスについて 第二次の交通政策策定に当たり路線バスが過去廃止された路線について年齢構成、住民の要望等を検討
- 協働力により、単地域の事業による公共運用を目指すべき

~公共交通は、まちづくりの要~

- 公共交通は社会のインフラ
公共交通を考えることは、まちづくりを考えること
誰もが自分の意思で移動できる(高齢者・子育て世代)
- 集い歩くことが賑わいに
生活に必要な施設をつなぐ公共交通ネットワーク
多少の不便も「健康増進」と割り切る
- こどもの教育
こどもの社会との関わりが増す

■アイデアいろいろ■

体験ツアー

買い物ツアー・お花見ツアー
↓
まずは、使ってみようという気持ちになってもらう

小さいうちから公共交通を利用する機会をつくる(小3以下で)



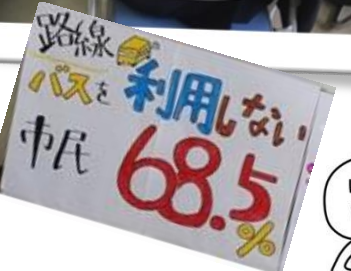
みんなで作ろう!

バス停のベンチの設置を

スーパーまるしょうをバス待合所&住民のいこいの場を作りましょう(仁保)

JR 仁保駅に仁保産の木材でログハウスタイルを作るぞ!(手作り)
+暖かい待合所もできる
といい!

森林税と同様交通税を!!



クルマがないと生活できない山口から
クルマがなくても生活できる山口へ

みんなで創る
持続できる
地域公共交通!



みらい行

乗車料 1518 円
1700 円